

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100043		
法人名	有限会社タムラ		
事業所名	グループホームはこべ 南棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町村受理日	令和2年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年開所より、地域の皆様との絆を大切に、事業展開、運営に努めています。COVID-19(新型コロナウイルス感染症)予防対策にも徹底して、ご利用者様が、安全、安心して生活出来る場所の御提供をしております。自然災害に備え備蓄品の管理をし、立地的にも高台で、地盤強度もありますので、有事には、地域の皆様の避難場所となれるように努めてまいります。ご利用者様おひとりおひとりに寄り添う介護を心がけ、QOLの向上、自己決定の支援、生活スタイルの尊重に重きを置き、スタッフ一同邁進してまいります。ソフトな面では、施設内での野菜作りや草花の手入れなど利用者にあった楽しみも行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員が外出時に地域の方から、気軽に声を掛けられたり介護相談を受ける等の他、季節の野菜の差し入れ、総合消防訓練の参加協力、運営推進会議委員に協力医を始めて地元代表の協力を得る等、地域社会との協力関係を築いている。
 2. 毎食利用者の希望を取り入れた献立を職員が作成し、食材は地元の店から仕入れをしている。また、事業所内菜園での収穫物や差し入れの食材で郷土料理や旬の味覚を活かした料理、行事食等を取り入れ、これまで慣れ親しんできた食生活を継続し、美味しいいただけるよう工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会やスタッフ会議等で、話し合いを持ち、理念を意識しながら、日々のケアに全職員努めている。	理念は、開設当時からのものを基本としているが、毎年度末に地域密着型サービスの意義を踏まえ、各棟のスタッフ会議・全体会議で見直しをしている。事務室・ホール・相談室に掲示し職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の避難訓練の案内を地域の方に配り参加して頂いている。また、近隣の幼稚園より、案内を頂き交流しているが、今年は、新型コロナウイルス感染症予防の為、自粛しているが、落ち着いたら交流出来る機会を作りたい。	現在コロナ禍で自粛しているが、毎年、地域の幼稚園の園児訪問を受け入れたり運動会へ招待されている。また、職員が買い物等の外出時に以前の利用者家族や利用者の知人等から声をかけられたり、野菜等の差し入れ、介護相談を受ける等、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会時や職員が町内に出掛けた際など、声を掛けて頂き、認知症について話しをされる事もあり、アドバイスする事もあった。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、その時の議題で、会議メンバーの方より、意見を頂き、サービス向上に努めているが、1月以降、新型コロナウイルス感染症予防の為日程調整中である。	コロナ禍により延期しているが、これまで定期的開催し、運営状況・行事・入居者状況等を報告している。また、会議に合わせて市の介護保険の現状や防災講話、通報訓練を実施し、メンバーから率直な意見や助言をいただき、サービス向上へ活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事があれば、市の担当者の方に聞いたりしている。田村市主催の会議に参加したり、介護相談員派遣事業の受け入れをしているが、新型コロナウイルス感染症予防の為会議等中止している。	運営推進会議委員である行政職員や、介護相談員派遣事業三者会議の懇談会、利用者へのサービスについての電話相談等で積極的に市と連携協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を開き、話し合いを行い、身体拘束廃止に向けて、全職員が意識しながら努めている。夜間のみ、安全の為、玄関施錠している。	身体拘束廃止に関する指針を基に、定期的に委員会を開いている。また、身体拘束廃止やスピーチロック予防についての法人内研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会やスタッフ会議等で、勉強会を開き、虐待になるケアが無いが、再確認して、常に意識しながらケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会やスタッフ会議等で、成年後見制度について話し合うが、制度について、まだまだ、理解不足な為勉強会等を積み重ね、理解出来るように努めていきたい。以前利用した方が居たが、今後必要な方が居れば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、十分に理解して頂ける迄説明を行っているが、その都度、説明が必要ならば、納得されるまで説明して、理解を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様と、日々コミュニケーションを図り、信頼関係を築けるように努めている。また、家族様とこまめに連絡して、意見や要望を伺って、運営に活用出来るように努めている。	利用者への日々の声掛けや家族の面会時、通院状況の電話報告時等に積極的に話をするよう努めている。直接、意見要望等を言っていたことが多く、いただいた意見はスタッフ会議等で協議し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員とコミュニケーションを図り、全体会やスタッフ会議等で意見や要望を聞き、運営に活用出来るように努めている。	業務上の何気ない会話から意見・要望を聞き取っている。また、スタッフ会議・全体会議等で、意見を出せる雰囲気づくりに心掛けている。出された意見は運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の意見や要望を聞き、職員個別の勤務状況を把握しながら、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に応じ、業務状況を把握し、事業所内の研修等を行っている。外部の研修に参加して色々学んで欲しいが、現在の人員では、中々難しい状況である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見交換の場があれば、出来る限り参加して、色々な意見交換をし、サービスの向上に反映出来るように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎回、本人の納得しないままの入所が多く、その都度利用者、家族様から話しを伺い、安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その都度、話しを伺いながら、居室担当者を中心に信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様からその都度話しを伺い、その時に必要なサービスに対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に、出来る事を声掛け、見守りを行い、また職員と一緒に رفتりして関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症予防の為面会を制限していたが、現在は、事前に電話で面会日を伺い短時間面会して頂いたり、希望される方には、電話で話して頂いたりして家族様の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為、外出を控えていたが、馴染みの床屋、美容室の方に来て頂いて話しをして頂いていた。また、短時間の面会でも、楽しく話しをして過ごして頂いていた。	コロナ禍により外出や面会を自粛しているが、行事での外出時は町内の食堂での外食を実施したり、馴染みの理美容室へ外出している。また、以前住んでいた地域の人や職場の同僚等の訪問時に、ホールで談笑していただく等、関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様に合わせて支えあえるように努めている。また、職員が間に入り、利用者様同士が交流出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、外出先で声を掛けて頂き、近況を話しされる方もいた。また、時々、施設に来所される方もいて、必要があれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、利用者、家族様から意向を伺い、意向を伺う事が困難な方には、居室担当者が、本人の意向や思いを把握して検討している。	入居時の家族からの情報を基に、居室担当職員が利用者の思いを汲み取るよう心掛けている。困難な場合はこれまでの生活状況や家族の意向から本人本位に沿う支援になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様から今までの生活状況を伺い、十分に把握してその人らしく生活出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの生活ペースに合わせて、居室で休んで頂いたり、出来る事を無理なく声掛けして行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度、本人、家族様から話しを伺い、介護計画を見直ししている。また、居室担当者が毎月モニタリングして必要ならば、計画を見直しして、現状にあったプラン作成に努めている。	入居時に本人・家族の意向に沿った介護計画1か月分を作成している。その後、アセスメント、モニタリングを行いカンファレンスで協議し、3か月を目途に計画を見直して本人・家族から同意を得ている。また、体調変化時にはそのつど見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個人ノート、業務日誌に記録して、職員間で情報を共有して、介護計画に活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様それぞれに合わせてサービスを検討してサービスを検討している。その時に必要な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防の為、外出等を控えているが、落ち着いたら、ボランティア受け入れ、外食ドライブ等今までと変わらずに楽しむことができるよう努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されてからも、かかりつけ医に受診されている方もいる。また、他の医療機関の希望があれば、通院も行っている。受診、訪問診療後、家族様に報告している。緊急時は、看護師連絡して、主治医に報告して対応している。	入居時にかかりつけ医か協力医院受診の希望を伺い、通院は、事業所でも対応し、病状により家族同行をお願いしている。また、協力医院より月2回の訪問診療と急変時の対応をいただいている。受診結果は、家族へ報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に変化があれば、職場の看護師に報告して対応している。また、休日、夜間でも連絡体制が出来ており、看護師より主治医に連絡して対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった方はこの1年間いなかったが、入院になった場合は、事業所の看護師が窓口になり、医療機関の方と連絡を取り、情報を得られるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人、家族様から話しを伺い、書面にて方針を確認しているが、その時に応じて対応出来るように努めている。	入居時、「重度化・看取りに関する指針」により説明し書面にて同意を得ているが、介護支援計画の更新の都度、家族へ説明し再度書面で同意をいただいている。協力医院とスタッフが連携し、看取り介護に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時、事故発生時に備え、職員で情報を共有して対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署、地域の方々に協力して頂き避難訓練を実施して協力体制を築いている。新型コロナウイルス感染症予防の為、日程調整中。	総合避難訓練は、推進会議委員・地域住民が参加し、消防署員と連携した訓練ができる体制を築いている。今年度は、コロナ感染予防のため総合防災訓練等の日程を調整中である。また、米・水・缶詰・オムツ・下着・毛布等を備蓄している。	火災を想定した避難訓練の他、地震や風水害等のあらゆる災害を想定した訓練を数多く実施し、全職員が利用者を避難誘導できるよう実体験を積むことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳やプライバシーに十分に配慮してその方にあった声掛けや対応に気をつけている。	プライバシー保護マニュアルに基づいて、利用者の尊厳や誇り、プライバシーを損なわない対応に心掛けている。法人内接遇研修を実施している。書類は書棚で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様との関わり方を大事にして、本人の希望や思いを伺い対応している。伝える事が困難な方には、本人の思いに寄り添いながら対応して努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ、無理なく体操や歩行練習等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やクリームを洗面後に使用される方も居るため、必要時支援している。また、個々に、ヘアブラシに名前を記入していつでも使えるようにしている。介助が必要な方には支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	見守り声掛けや職員と一緒に、野菜の皮むき等を行っている。また、季節ごとの旬な物を使用して、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	利用者の希望や意向を反映した献立を職員が作成し、食材の下処理等を利用者ができる範囲で手伝っている。また、近隣からの差し入れの野菜や事業所菜園の収穫物を食材に活かし、食事を共にしながら楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事、水分量を毎日把握している。また、好みの飲み物を提供して水分確保している。介助が必要な方には、介助を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声掛けを行い、チェック表にて確認を行い、口腔ケアを実施している。介助が必要な方には支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早目早目に声掛けを行い、排泄表を確認しながら排泄パターンを把握して支援している。	排泄表や利用者の行動・仕草から排泄パターンを把握し、声かけ誘導時は、羞恥心や自尊心への配慮に心掛けている。日中は一部の利用者にトイレでの自立排泄に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な促しでダメな場合には、看護師に報告して、医師に相談して便秘薬処方して頂いている。また、乳製品、冷水を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、日中になってしまうが、その時の体調やタイミングに合わせて入浴を行っている。その時の職員と昔の話などをしながら、楽しく入浴している。	週2回を基準とし、利用者の意向に沿って順番を決めている。入浴を好まない利用者へは、タイミングや気分を考慮して支援している。入浴中は、世間話や昔の思い出話を聞きながら、ゆったりと入浴していただけるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、精神的不安定になり、体動活発、幻聴、幻視等色々な症状が出る方もいる。こまめに巡回を行い、また、ホールにて職員と休んで頂き、落ち着いたら居室にて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を把握して、処方の変更等があれば、必ず業務日誌にて申し送りをして把握していた。わからない事があれば、看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を把握して行って頂いている。出来ない方には、その人にあった事を支援したり、職員と一緒にしている。塗り絵を楽しみにしている方、毎晩、行事の時、晩酌をされている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防の為外出や面会を自粛していたが、地域の方、家族の方の面会の時等ゆっくり話しを楽しんで頂いたり、外出して気分転換して頂いていた。	コロナ感染予防のため外出や面会を自粛している。家族面会は事前連絡の協力をいただき、帰宅希望者へは感染予防をお願いしている。現在、敷地内を散歩し草花観賞等で外気に触れ、気分転換ができるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その都度家族様と相談して、自分で少しのお金を所持されている方もいる。欲しい物があれば、職員に買って来てもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方は居ないが、いつでも書いて出せる事、いつでも電話する事も出来るが、携帯電話を所持していて、好きな時に電話している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	分かりやすく目印をしたり、季節に応じて、飾りつけをして、居心地よい空間作りに努めている。	ホールはテーブル(食事兼用)・ソファを配置し、季節に応じた飾りつけや草花を生け、懐メロをBGMにしたり好きなDVDを見る等、心地良く過ごせるよう配慮している。また、窓辺に差し込む強い日差し対応に葎簀とエアコンを併用し、快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様の居室に行かれて話しをしたり、テレビを持ち込み好きな番組を観たり、ホールで話しをして休まれたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	使い慣れた物を持って来て頂いたり、塗り絵の作品を掲示したり、写真を飾られる方もいる。	居室は、電動ベット・エアコンが備え付けられ、洋室へ畳を敷くことも出来るので希望により対応している。利用者は、慣れ親しんだ布団や整理ダンス、テレビを持ち込み、家族写真・塗り絵等の作品を飾り、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉に名前のプレートで分かりやすくしたり、カレンダーを見やすくしたり工夫している。		